

平成 22 年度春 プロジェクトマネージャ試験分析速報

2010,4,19 (株) アイテック 情報技術教育研究部

1. 試験全体講評

新試験制度で 2 回目の実施となった平成 22 年春期のプロジェクトマネージャ試験の分析(速報)について述べます。問題の難易度については、午前Ⅰ、午前Ⅱ、午後Ⅰ、午後Ⅱいずれについても妥当な難易度のレベルと思われます。プロジェクトマネージャとしての知識や能力を試すのに必要十分な標準的な問題であると考えられます。従来どおりの傾向を踏襲して、奇異な問題が出題されないような工夫が見られ、良問が揃っているように思われます。

午前Ⅱでは新しい形式が定着されたこと、午後Ⅰでは、事例が詳細で長めの問題文で、設問や要求解答数を多くすること、午後Ⅱにおいては、設問ⅰ、ウの新しい制限文字数と形式が定着したとともによりプロジェクトマネジメントそのものを問うようになっている点の特徴として挙げられますが、全体として真の職務遂行能力の有無を試そうという趣旨が伺えます。

2. 午前Ⅰ試験(高度試験共通)の講評

新試験制度になって 3 回目の試験実施ですが、前回の平成 21 年度秋期における高度試験午前Ⅰは午前免除対象者が受験者の半数前後いました。試験種別によって異なりますが、午前Ⅰを受験した人で合格点の 60 点以上取れた人は受験者の 4~5 割です。普段学習をしていないと簡単には 60 点を取れませんので、しっかり対策する必要があります。

共通知識として幅広い分野から 30 問が出題される午前Ⅰ試験ですが、過去 2 回と同様に今回も応用情報技術者試験の 80 問からの抜粋になっていました。

出題内容に関して、前回試験では新傾向問題が増えましたが、今回はやや少なくなっています。難易度は前回に比べれば、少し易しかったといえます。

(新傾向問題)

- 問 3 整形形式の XML 文書が妥当である条件
- 問 9 経験則を基にした評価方法
- 問 14 LAN アナライザを使用するときの留意点
- 問 18 プロジェクトライフサイクルに共通する特性
- 問 20 ITIL v3 における問題管理プロセスの目標
- 問 26 企業の競争戦略におけるチャレンジャ戦略

3. 午前Ⅱ試験講評

前回から高度区分共通問題の午前Ⅰと試験区分ごとの専門分野の知識を問う午前Ⅱに、午前問題は分割されています。専門分野ですが、難問というよりも全体的に基本的な知識

を問う問題でした。従来過去出題問題の再出題が多く見られていますが本年もその傾向は見られています。おおむね予想された範囲内の問題で比較的容易に取り組むことができたのではないかと思います。

新規の問題としては「クリティカルチェーン法」,「情報システム・モデル取引・契約書」などといった用語を問う問題が見られていますが,それほど多くはありません。そんな中で,プロジェクトマネジメント分野は,PMBOKを明記して出題されている問題が多く見られています。いずれも用語の知識の十分な理解がないと解答が困難だったと思われます。これらの問題は,過去問題の再出題として今後また出題される可能性は高いと思います。

また,今回も計算問題が少なくなっています。電卓を使わずに効率的に解答する状況において適切だったと思われます。

以上から,内容的には難易度は普通と思われますが,知識の有無によって解答時間に受験者の中で差が出たのではないかと思います。

4. 午後 I 試験講評

前回と同様に 4 問中 2 問を 90 分で解答する形式です。今回は出題分野として問 1 は新システムの構築,問 2 は会計業務の Web アプリケーションシステム移行プロジェクト,問 3 はシステムの再構築,問 4 は組込みシステム開発の見積りに関する出題でした。問題間の難易度格差という点ではそれほど大きな差はなく,午後 I としては適当な内容といえるでしょう。ただし昨年に比べ,問題文が具体的で長く,図表が多く,設問や要求解答数が多かったといえます。

各問題について出題内容を見ていきます。

問 1 新システムの構築

金融機関の法人向け商品の販売管理システムの構築を題材とした,一般的なプロジェクト計画に関する問題です。スケジュールやテスト,利用部門の関与など内容は多岐に亘り,図も含まれています。解答数も多く,解答に時間がかかると思われ,この点を考慮して,難易度はやや高いと考えます。

問 2 会計業務の Web アプリケーションシステム移行プロジェクト

EUC で処理を行っている会計業務を Web アプリケーションシステム化するプロジェクトを題材にした,内部統制を強化するプロジェクトの問題でした。物語風の文章で,問題文が長く理解するのに時間がかかりそうです。設問も長く解答数も多いので,設問要求と問題文の手がかりをしっかりと押さえることがキーとなります。難易度は普通と思われます。

問 3 システムの再構築

契約管理システムの再構築を題材とした,付帯する現行システムの保守やデータ移行の計画やテストについて問う問題です。この問題は,スケジュールや流れが詳細に書かれていて問題文の量や解答数も多く,ていねいに解答する必要がありますが,問題文の文脈に

沿って知識をうまく組み合わせればさほど難しくなく、全体として難易度は普通と考えます。

問4 ナビゲーションシステムの請負契約の見積り

カーナビゲーションシステムの請負契約の見積りに関する問題です。いわゆる組込みソフトウェア開発分野の出題ですが、過去の開発での品質やコストの問題を反映させた契約や見積りを模索するという流れになっています。問題文は長く、この分野の事情がふんだんに含まれていて、図表が多いため、難易度としてはやや難と考えます。

5. 午後Ⅱ試験講評

午後Ⅱは、前回と同様に設問ごとに字数の制限が設定されています。従来は特定の状況におけるPMとしての判断能力を問う出題がよく見られましたが、今回はだれしもが経験するであろうプロジェクトマネジメントそのものの一般性の高い出題の傾向がより顕著になっています。

問1はリスクマネジメントやリスクアセスメントの手順を問うものですが、一般性が高いので、経験があれば取り組みやすいと思います。問2は、PM業務をチームリーダーに分担するという問題で、多少限定的なシチュエーションですが、よくある設定であり、たいいていの人が、準備した題材とマッチする問題ではないかと思います。問3は進捗管理に関する問題でこれまた特定のではなく自由度の高い問題でした。どの問題も自由度が高く、やや易しく書きやすいものと考えます。なお、いずれの問題も開発内容のドメインに依存するものではなく、プロジェクトマネジメントそのものに特化していて、組込みシステムのプロジェクトマネジメントを題材にしても書きやすかったものと思われます

問1 システム開発プロジェクトのリスク対応計画について

本問は「リスクマネジメント」に関する問題です。問題文の説明は非常に一般的であり、これをそのまま書いてもうまくまとめられません。リスクマネジメントに関する確実な経験がないと取り組みにくかったと思われます。書きやすいが表面的な一般論に終始しやすいので、よりていねいな具体論の展開を心がける必要があります。

問2 システム開発プロジェクトにおける業務の分担について

本問は、要員管理に関する問題で、チームリーダーへのPMの権限の一部委譲を取り上げています。臨機応変にチームリーダーの状況をとらえて、柔軟な対応を行うことをしっかりと述べればよいと思われます。多少限定的ですが一般性は高く、体験談の列挙になるおそれが高い問題です。内容的には自由度が高く選択しやすいですが、論点を明確にして、考え・主張を展開していくことを特に心がけて論述する必要があります。

問3 システム開発プロジェクトにおける進捗管理について

本問は進捗管理に関する問題です。クリティカルパスにある重要なアクティビティに着目して、重点的に管理して進捗遅れの防止や進捗遅れの発生時の対策を問うものです。こ

の問題も観点は一般的であり，題材としての制約は少ないものと思われます。ただし，この問題も体験談の列挙になりやすく，論点や主張をまとめにくく，注意が必要です。

以上

